

経営とは何か —現代企業行動論—

開倫塾
塾長 林 明夫
<http://www.kairin.co.jp>

お話していただきたいポイントとして大学から示された内容を中心に、QandAの形にまとめてみました。御活用ください。

Q1：本日の講義の目的は何ですか。

A：(1)経営者が直接学生に語り、「経営とは何か」を学生に知ってもらい、何のために経営学を学ぶのかを考え、自覚をもって学生時代だけではなく卒業後も経営学を学び続け、自分の力で学力を身に付け、仕事の面において多様な選択肢のある人生を歩んでもらいたい
(2)自らの力で自らの学力を身に付ける目的は、多様な選択肢のある人生を送るため
(3)「経営」とは、「営みを経て目的、目標に達すること」

Q2：自己紹介をお願いします。どうしてこの仕事に携わることになったのか、経歴の御紹介を。

A：(1)慶應義塾大学法学部法律学科卒業(1973年)
(2)卒業後29歳まで同大学司法研究室研究生
(3)世界銀行研究所(1998年)、ハーバード大学大学院行政大学院国際開発研究所(1999年)、国立シンガポール大学行政大学院(2002年)で各々、公共部門の民営化短期集中コース修了
(4)マニー株式会社(手術用縫合針製造、ハノイ・ヤンゴン・ビエンチャン)社外取締役(2004～2010年)、現在は顧問
(5)学校法人有朋学園 有朋高等学院(福島市)理事長、社会福祉法人両崖福祉会 特別養護老人ホーム清明苑(足利市)理事、宇都宮大学大学院工学研究科客員教授も

Q3：御社の事業概要と特徴をお話ください。

A：(1)社名：株式会社 開倫塾
(2)歴史：1979年創業、1984年株式会社 開倫塾設立
(3)本社：栃木県足利市、校舎は栃木県・群馬県・茨城県に60校
(4)事業内容：小・中・高生対象の学習塾、学習サービス(Learning Service)業

Q4：企業を起こすということはどういうことですか。起業の基本と戦略をお話ください。

A：(1)起業する夢と目標の設定
①・学校での教育を補い、学力不足の子どもたちをつくらない
・教育問題の一つの柱は学力問題
②・自分が進学を希望する学校への進学を果たし、人生の選択肢を多様にする
・多様な選択肢のある人生の実現に役立ちたい
(2)お金と人をどう工面するのか。起業したあとのマネジメントをどう行うのか
①資本金は定期預金をして自分でためる
②金融機関に経営情報や計画、実績を開示してご融資をお願いする

- ③企業としての社会的使命、経営理念、教育目標、経営方針、行動目標などを明確にし、社員や採用希望者に示し続け、価値観の共有化を目指す

御参考まで

(1)開倫塾の社会的使命

- ①学力の向上により、「多様な選択肢のある人生」の実現に貢献
- ②地域の教育力の向上により、「正常に機能する社会」の形成に貢献

(2)開倫塾の基本理念

①顧客本位

- ・「顧客」とは「塾生、保護者、地域社会」
- ・「学習サービスの内容」は「学校教育で不足する教育を補うこと—徹底的に補う—」と「本人の進学したい学校への進学を果たすこと—「一流校」とは自分の行きたい学校。一流校合格率 100%を目指す—」

②独自能力

- ・「社内」「同業他社」「異業種」という 3つの「ベストプラクティスのベンチマーキング」を踏まえた上でのイノベーション(自己変革)を継続すること
- ・開倫塾独自の「学習の 3 段階理論—理解・定着・応用—」の浸透

③社員重視

- ・社員としてのエンプロイアビリティ(雇われる能力)の向上
- ・そのためのエンパワーメント(「能力強化」と「権限委譲」)
*この 2つの階級別(トップ・ミドル・一般社員)実施
- ・自律的に行動する能力ある社員づくり
- ・学習する組織づくり

④社会との調和

- ・法令遵守
- ・セクシズム(男女差別)、エイジズム(年齢差別)、レイシズム(出身による差別)の禁止
- ・社会貢献活動の推進—NPO や NGO の支援、開倫ユネスコ協会の活動支援
- ・CSR(企業の社会的責任)—CO₂削減、チラシの削減—
- ・社会的企業を目指す—問題解決型教育相談、刑務所での受刑者教育—

(3)開倫塾の経営方針

- ・「学ぶに値する塾づくり」—全塾生の自己学習能力の育成—
- ・「働くに値する職場づくり」—社員一人ひとりの潜在的可能性を少しでも出せる企業づくり、「出入り自由」「85歳過ぎまで働ける」職場づくり—
- ・「倒産しない会社づくり」—企業は原則倒産、校舎は原則閉鎖。四半期決算、社員との経営情報や危機感の共有で永続する企業(ビジョナリー・カンパニー)を目指す—

(4)開倫塾の行動目標

- ・「教え方日本一」…「毎回レッスンプランに基づいた授業」「全国模擬授業大会」
- ・「塾生数北関東一」…「教え方日本一を目指す開倫塾を北関東のすみずみに」

(5)調査、研究、データに基づいた学習サービス、経営情報の共有化

(6)開倫塾の経営品質向上の取り組み

- ・1998年 キックオフ
- ・2000年 栃木県経営品質賞 優秀賞受賞
- ・2002年 栃木県経営品質賞 知事賞受賞
- ・2009年 ハイサービス日本 300 選受賞

Q 5 : 仕事を行うとはどういうことですか。どのように取り組んでいるかお話しください。

A : (1) 「マーケティングの 4P」が最も重要

(2) マーケティングの 4P とそれぞれの顧客に対する意味

① Product (製品・サービス) … 「顧客の問題解決」になっているか

- ・顧客とは誰か
- ・顧客の問題とは何か
- ・顧客の問題をどのように解決したらよいのか

② Price (価格) … 「顧客の負担」になっていないか

- ・購入し易い価格とは
- ・但し、低価格競争、大量の無料サービスは企業を「血の海」に追い込む
- ・低価格と労働生産性の向上の両立の実現とは(トレード・オフとサプライチェーンマネジメント)

③ Place (流通・立地) … 「顧客の利便性」が高いか

④ Promotion (販売促進・広報) … 「顧客とのコミュニケーション」をどう実現するか

Q 6 : 事業を行っていて一番難しいことは何ですか。特に管理の面で難しいことは何ですか。

A : (1) バラツキや異常値が出ること、それによって校舎が閉鎖に追い込まれること

(2) その対策として「業務改善」と「イノベーション(改革)」、「経営品質向上」がある

- ・「5S(整理・清掃・整頓・清潔・躰)」、「基礎教育」、「標準化」、「改善活動」、「ISO(29990 シリーズ)」、「統計的手法の活用」、「TQM」、「シックスシグマ」、「デミング賞」、「日本経営品質賞」などの取り組みがあり、すべて役に立つ。これらの基礎的な学習を

Q 7 : 日本の経営の特徴である終身雇用制、年功序列制についてどのように考えますか。

A : (1) 「雇用の維持」と「雇用の創造」は企業としての社会的使命

(2) 最大の課題は、激しい経営環境の変化と、人件費の上昇に耐えられる経営が実現できるか

(3) そのためには、サービス産業でも「労働生産性の向上」や「海外展開」が求められる

(4) 「業態変更」や不採算部門の「スクラップ」&「ビルド」も不可欠

(5) 「キャリア権」(自分のキャリア形成は基本的人権の一つ)の推進を

Q 8 : 今、企業が求めている人材(人財)とはどのような人ですか。

A : 次の 3 つの基本的な能力(キー・コンピテンシーズ)をもつ人

(1) 自律的に行動できる能力 (課題山積社会に対応)

(2) 知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力 (知識基盤型社会に対応)

(3) 多様な集団で交流できる能力 (グローバル化社会に対応)

* 学習塾の仕事に向いている人

- ① 声の大きな人
- ② 子どもが好きな人
- ③ 研究熱心な人

— 開倫塾の教育目標 —

- (1) 高い倫理
- (2) 高い学力
- (3) 高い国際理解
- (4) 自己学習能力の育成

Q 9 : 学生時代に一番やっておくべきことは何ですか。若者へのアドバイスをお願いします。

A : (1) 「学習の仕方」を「学習」し、身に付けること→ Learning To Learn (学習の学習)を

- ① 「学ぶ」とは study、「理解」すること
 - ・「予習」の仕方を身に付けること
 - ・予習とは、よくわからないことをはっきりさせて授業に出ること
 - ・辞書や用語集の使い方(調べた語句はメモし、すべて覚える)
 - ・図書館の活用の仕方
 - ・「授業の受け方」…前の席に着席、ノートを取ることも能力
 - ・「ノート整理」…「仕事はノート、メモで身に付ける」
- ② 「習う」とは learn、「理解」したことを身に付けること(「定着」)。大事なのはこの learn、習うこと
 - ・「定着のための3大練習」、「音読練習」・「書き取り練習」・「計算・問題練習」を一練習は不可能を可能にする 小泉信三先生一
- ③ 「応用」とは「テスト」でよい点数を取ること、社会に出ても学び続け学んだことを役立てることができること
 - ・「過去問5年分以上を5回以上練習」、「間違いノート」と「まとめノート」をつくり、繰り返し学習を

(2) 「読書による思慮深さ」を身に付けること

- ① 「書き抜き読書ノート」
- ② 大切な本は5～6回考えながら読む
- ③ お勧めは「池上彰」氏の本。新書の竹内宏著「経済学の忘れもの」日経プレミアムシリーズも
- ④ 「ドラッカー」「ポーター」「コトラー」は基本中の基本。入門書から読むこと

(3) PC と外国語のスキル向上を

- ① ワード、エクセル、パワーポイントのスキル向上をはかり、PC でつまづかないように。タッチタイピングは必須
- ② TOEIC は「公式問題集」(Vol.2～5巻)を順を追って繰り返し学習を(「解説・解答」を教科書のようにていねいに読むこと)。単語はすべて覚える。公式問題集のリスニング用CDのパート2・3を繰り返し聞く。文法は、中村澄子著「1000本ノック」と高校生用文法書「フォーレスト」(桐原書店)で十分。NHK ラジオの外国語学習番組は極めて有用

(4) 卒業後の準備を

- ① 紙ベースの新聞を毎日、図書館等で数紙読み、世の中の動きを知ること(英字新聞も)
- ② 留学や大学院進学も大事な選択肢。積極的な行動を
- ③ 就職の最大の準備は、その企業や組織の社会的使命を知り、理解すること

Q10 : 「企業をめぐる環境変化」にどう対応したらよいでしょうか。また、「消費者ニーズ」にどのように対応したらよいでしょうか。お話しください。

A : (1) 経営者として、中堅幹部として、社員として、その立場、立場で学習し続け、情報を共有化した上で、顧客にとっての価値を創造し続けること

(2) 参考になるホームページ

- ・公益社団法人 経済同友会・OECD パリ本部・MIT OCW(マサチューセッツ工科大学オープンコースウェア)・経済産業研究所・開倫塾のホームページ林明夫のコーナー

(3) 「一生勉強、一生青春」相田みつを先生

「教育ある人とは(一生)学び続ける人」ドラッカー先生

(4) 経営学の勉強は、企業経営上すべて役に立つ。基礎的な勉強をしっかりとしてください。

以上

御清聴を感謝申し上げます。

御質問、御意見、コメントがありましたら自由に御発言ください。

— 2013年5月16日記 —